

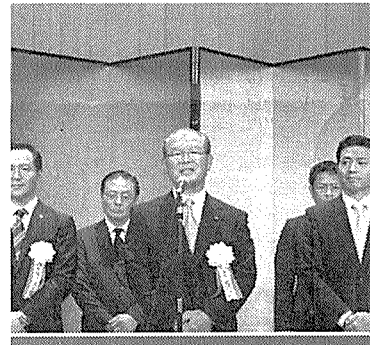
が総会開き

半減

卸機能強化資金事業など複数案を審議。収支予算案では組合員から徴収する賦課金負担を年6万円に半減するなど改正案が上程され、全会一致で全議案が承認された。

任期満了となった役員改選では、植村会長をはじめ糸瀬好弘副会長、中村敏章、佐藤浩一、小林和人、北村陽三、林実の各理事および監事の全員を再任した。

植村会長は「創立14年を迎えることができたの



④記念式典であいさつする大沢会長 ⑤45億円を投じて建設された千葉粉体工場の外観

東京生 店の高 級ブラン ド豚肉 「TOKYO」の販 売業者で組織す る「TOKYO ASSOCIATION」(会 長)植村 光一郎・ 長(株)トコパニオン常 務執行役)の平成25年度 総会が、5月9日午後3 時から東京都八王子の京 王プラザホテルで開催さ れ、提出全議案を承認し た。

今年度は9千頭目標 東京X協が総会を開催

も消費者、生産者、認定 店舗の皆さまの支援の 賜もの。現在147社、 337店舗と販売店舗数 は昨年より60店舗増加し た。昨年度から第4次プ ランド化として①消費者 の購買行動が生産工程に 大きく影響する②良質の 食品を見極める選食能力 を高める③地域密着の地

「やきにく」を年6回発 行、協会ホームページの 拡充・強化などが計画さ れている。

また、任期満了に伴う 役員改選では、新井会 長が再任した。新任の理 事は次のとおり。



日ごろの協元に謝辞を述べる米 理事長

域活性化に力を注ぐ― などに取り組んでいる」 「このため東京の名産 『東京X』として、認定 店の協力を得て東京スカ イツリーエリアでの飲食 や東京マラソンでの東京 Xランチパックの販売、 B級グルメの東京Xの肉 うどんなどに積極的に協 力し、学校の社会科授業 など東京Xのフードチ ーンモデルの説明など を通じて情報発信してき た」とあいさつ。

来賓の都農林水産振興 財団事業課の高橋慎一課 長は「東京Xは皆さまの 力で25年度は出荷頭数9 千頭を目標に、雌豚70頭 弱、雄豚25頭弱の原々種 豚を維持して生産を支え ている。今後も長期にわ たりXシステムを維持しプ ラ ンドを磨いて、日本のプ ランドをリードするので はなく、世界の最高峰に 君臨したい」と生産・技 術面からの支援を約束し た。

日本食研の千葉粉体工場完成し記念式典

日本食研ホールデイン グス(株)大沢一彦代表取 締役(会長)は5月18日、 千葉粉体工場完成見学会 および記念式典を開催し た。千葉粉体工場はこと し1月、千葉本社工場敷 地内に見学施設を併設し 省内など環境に配慮し していた。

た工場となるよう計画を 進め、これまで以上に消 費者のニーズに柔軟にこ たえられる商品や付加価 値の高い商品を開発する とともに、生産拠点とし て2月から本稼働を開始 した。



「積極的な情報発信をして きた」と植村会長

Xの生産農家は27戸で、 24年度出荷は8900 頭。25年度目標は9千頭 である。

50人規模の記念セレモ ニーの開催も計画してい る。 昨年度から開始した東 京Xを使った食肉調理品 の規格基準についても、食 品調理協会の分類規約 を導入して明確化し、合 わせて百貨店や量販店に おけるギフト販売(認定 店の工場および認定店で 処理加工された生肉、ひ き肉)についても規格基 準を制定した。

「賃貸物件のため、現 状のまま使用せざるを得 ず、それでも大変に気持 ちの素晴らしい大家さん のおかげで永年好きなよ うに使わせていただいで いた」(堀氏)。新事務 所は十数年前に手当て していた自社物件で、当 初から同社の業務(営業 ・サービス、メンテナンス、倉庫)に合った設 計。

事務所北側には新しく 幅広の道路が新設された ため事務所の両面が窓口 となるなど利便性に富ん でいる。また大型トラッ クでも敷地内に入れるな ど、来客用の駐車スペー スも十分に確保され、き わめて使い勝手の良い営 業所となっている。

北海道経済は、悪化す るのはいち早く、回復す るのは最も遅いといわれ ている。パブル崩壊後、銀 行や大手企業の倒産が相 次ぎ、経済は回復してい ないが、近年、国内の景 気も上向きつつあり、今 期はすでに受注物件を数 件保有するほか、ラル ス、コープ札幌、ラッキ ーなど同社の主力ユーザ ーへの食肉生産基地にお ける加工品生産の提案な ど新営業所の活躍が期待 される。

札幌営業所を新築移転する 営業開始 平井カンパニー

平井カンパニー(本社)が完成し、5月20日 札幌営業所(白川剛志所 長)が完成し、5月20日 から事務所を移転し営業 を開始した。



平井社長を囲む同社幹部と 札幌営業所スタッフ

新事務所は敷地面積3 00平方メートル、鉄筋モルタ ル平屋建て。交通アクセ IBILITYは、かねてより建設を進めていた 札幌営業所(白川剛志所 長)が完成し、5月20日 から事務所を移転し営業 を開始した。

新事務所の所在地は次 所在地 北海道札幌市 白石区菊水1丁目2条2丁 目52-1313▽電話 (011) 876-90 51▽FAX (01 1) 876-9251。

開発および生産拠点 小容量生産ライン拡充

日本食研グループは、 1971年10月に創業以 来、順調に発展、千葉本 社工場は92年2月の稼働 下の小容量生産ライン による、首都圏を中心に東 日本を統括する役割を担 ってきた。新工場の敷地 面積は2501.75平方 米(約757坪)、延床 面積1万2168.92平 方米(約3681坪)の 全・安心を踏まえた生産 設備・システムを構築す る。生産品目は粉体プレ ンド調味料(から揚げ

粉、天ぷら粉など)で、 生産能力は年間1万7千 小となっている。 施設見学のため、会場 をヒルトン成田に移して 開かれた完成記念式典の 冒頭、大沢会長は「日本 食研は昭和46年10月、香 川県高松市で畜産加工研 究所として創業、ことし 10月で42年を迎える。お 客さまに密着したサービ スを念頭に営業網を拡 充、平成7年には念願で あった全都道府県に営業 所の配置を完了し、現在 はグループ会社を合わせ て国内215カ所、海外8 0カ所からなる飛躍を 期待するとの激励の祝辞 が贈られた。」